

●協働学習

■児童生徒発表型

実践タイトル

プレゼンでよく伝わる発表 画面転送で共有

本時のねらい

資料や友だちの発表から、かまぼこ工場で働く人々の工夫について理解する。そこで、PCをグループに1台用意し、自分の作った資料を示しながら発表させる。また、グループの発表を学級全体で共有するために、プレゼンテーションの画面を電子黒板に転送して全員で見ることができるようにする。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板

工夫を視覚的にとらえさせるために、プレゼンテーションソフトウェアで作成した資料をPCで提示しながら説明し、グループ内の友だちによく伝わるようにした。

PC教材

児童が幅広く資料を探し、適切なものを活用できるように、写真や動画を簡単に取り入れられるプレゼンテーションソフトウェアを使った。

参考にしてほしいポイント

調べ学習において、児童は教科書や資料集、図書室の本、見学先で撮影した写真や動画などさまざまな資料を活用して学習を進める。まとめの際に、それらの資料を簡単に利用して、発表の資料としても有効に使えるようにプレゼンテーションソフトウェアとPCの活用を考えた。多様な資料が使い、写真等で具体的に示すことができ、口頭発表を支えるものとなった。

学習の流れ(分)		主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等
本時の展開	導入 0 5	○学習のめあてを知る。 「おいしい笹かまぼこを多くの人に食べてもらうために、工場ではどんな工夫をしているのでしょうか。」	・電子黒板（プレゼンテーションソフトウェアで作成した自作資料を提示） ・自作資料（これまでの学習を資料で振り返り、本時の学習課題を提示）（写真1）
	展開 30	○課題について調べたことを、一人ひとりグループ内で発表する。 ・おいしさの工夫→原料や製造工程について ・安心・安全な製品を作るための工夫→従業員の服装や衛生面 ・販売の工夫→配送、販売店について ○友だちの発表から分かったことを発表する。	・PC（4人グループに1台用意）（写真2） ・児童自作資料（前時までにパソコン室で作成したプレゼンテーション資料を、PCのデスクトップに貼り付けておき、すぐに提示できるようにした） ・電子黒板（画面転送機能を使い、グループのPCの画面を提示）（写真3）
	まとめ 45	○笹かまぼこのおいしさを知ってもらうためのパンフレットに載せるキャッチコピーを考える。 ○キャッチコピーを発表する。	



写真1：資料で学習の振り返りと課題確認



写真2：調べたことをPCを使って発表



写真3：資料を電子黒板に転送、全体で共有

児童生徒の反応

これまでノートや模造紙で行ってきたまとめを、初めてプレゼンテーションソフトウェアを使って行うということで、児童の関心は高まった。プレゼンテーションソフトウェアの操作に関しては、今回の学習に必要な基本的な操作（文字の入力、写真貼り付け、写真の拡大縮小、次ページ作成等）に限定して教え、3年生でもほぼ1時間で覚えられた。発表する際はプレゼンテーション資料の画面を見ながら、自信をもって話す児童の姿が多く見られた。

活用効果

評価の観点	社会的な思考・判断・表現
具体的変容	かまぼこ工場で働く人々の工夫について、自分の調べたことに加えて友だちの発表を聞くことで、より深く理解することができた。キャッチコピーには、笹かまぼこのおいしさを表す言葉や、たくさんの工夫をして作られている笹かまぼこを多くの人に食べてもらいたいという気持ちを表す表現が見られた。

実践の手応え

社会科の学習では、社会的事象について資料をもとに根拠を明確にして考えることが大切である。分かったことを全体でまとめる際に、グループのPCからプレゼンテーション資料の画面をすぐに電子黒板に転送して表示することができたので、「友だちの資料のここから分かった」と、資料にかえて確認することができたのはよかった。